

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0370101875		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム田園 2階ユニット		
所在地	020-0051 盛岡市下太田榎14-2		
自己評価作成日	平成24年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0370101875-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0370101875-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年10月5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

豊かな自然・近代的な都市に囲まれた環境を活かし四季の変化に触れ合っている。一人ひとりの生活リズムを大切に散歩・買い物・ドライブ等自由に行い、のびのびと生活して頂いている。この貴重な時間を元気に充実して生活して頂くために体力低下予防に心がけ、運動機能向上・筋力アップ・バランス感覚を磨き転倒予防に心掛けている。地域との交流・家族との交流を大切に皆様に支えられ、求められるグループホームを目指している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域とのつながりの良さは、運営推進会議の取り組みの中で出された意見や地域の情報を活かし、事業所の運営に活かしている。そのことが、地域の子供を巻き込み事業所内での『伝承神楽』の披露に繋がっている。伝承神楽の発表は11月の予定である。また、年に1回の敬老会に沢山の家族が参加し、バスや家族の車を利用して、旅行を楽しむと共に、家族との意見交換の場ともしている。また、排泄支援においては排泄時に暖かいタオルを常時15本ほど準備をして、利用者に使用している。タオルは夜勤者が準備を行い、なくなったら補充する等快適に過ごせる工夫が見られる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各会議や委員会等で理念を確認しながらケアの方針や方向性を決めている。理念はユニット内の目に付く場所に掲示し、常に指針となるようにしている。	年度初め、職員全員に年度の目標をアンケート調査を実施し、「心の声を聞く」「地域の人と交わり」「自然とのふれあい」を更に深めていこう、と決定した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田端町内の会員であり、廃品回収に協力している。また、地区のお祭りや子供会の行事に参加したり、園のイベントにも招待する等して交流を図っている。	町内会に加入しており、回覧板等を廻して頂き、子供会の行事予定も把握しながら、交流を深めている。グループホームの納涼祭では、5・6年生との交流を持ち、ピザを焼いたり、紙相撲で遊んだり、楽しいひと時を過ごした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大宮中学校の職場体験を受け入れ、認知症の理解やグループホームの役割を知ってもらっている。また、行事等に地域の人々もお誘いし、中に入ってもらくことで認知症の人の理解や支援の方法を知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・近隣保育園・福祉センター職員にも委員に加わって頂き、行事や日々の生活状況を報告したり、委員からは意見やアドバイスを頂く等している。今年は委員からの提言もあり、避難訓練に近所の方々にも参加して頂いた。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催する。地区子供会行事が回覧板で知らされており、運営推進会議開催時、子供神楽の発表の場を事業所に要望され、今後「子供神楽」見物を実施予定としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や疑問点は電話で問い合わせる等している。また、地域ケア会議等で包括支援センターの職員に相談したり助言を頂く等連携を図っている。	市町村との連携は本社が担っており、事業所は本社との連携である。利用者家族が、市から(利用者に関する)指導を受けたその内容を踏まえ、事業所において利用者の症状悪化に備えた例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の意思を尊重し、危険がない限り自由にして頂き見守りをしている。玄関の施錠に関しては防犯上の理由から行っているが、利用者様の希望があれば共に外出や散歩に出掛けている。	道路に面しているため、常時施錠しており、家族にも了承して頂いている。また1階とベランダにもセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ユニット会議・リスクマネジメント委員会で討議し、些細なことでも見逃さないよう日々職員同士で注意を払い、未然に防げるよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なときは、担当者が市の職員と協力しながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては十分な説明をするともに疑問や不安等を伺い理解して頂き契約及び退去となっている。また、入居・退居後でも問い合わせに関しては丁寧に対応している。改定時は、書面で提示した上で問い合わせに関しては随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際、委員の皆様から意見を頂いたり、来園時家族へ状況をお話しさせていただきながら家族とともに考えていくようにしている。また、ご意見箱を設置し、広く意見・要望を聞き取れるよう努めている。	家族が来訪された時、それぞれ聞き取っている。来訪時、利用者の日常が分かるように利用者が描いた絵や、折り紙を貼って色の変化で心の変化も感じ取っていただいている。	運営推進会議委員の家族代表者が1名固定されているが、複数の家族意見を反映させるため、家族構成員の工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設置し多面的な角度から話し合い全体会議にかけて反映している。また事務所に職員の疑問質問要望入れを設置している。	広報行事地域活動・スキルアップ・発注メニュー作成・防災エスケープ環境美化保全・個別援助計画作成・健康サポート・地域運営推進会議・リスクマネジメントの8委員会の設置。各会からの案件を全体会議にかけ、向上に向けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心に職員が各々役割を持ち、よりやりがいや評価しやすい環境が作られている。また、講習会への参加や資格取得を積極的にバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔月でスキルアップ勉強会委員が主体となり園外・園内研修を調整、実施している。資格取得の為の研修等への参加に配慮した勤務体制とし、また資格取得後は会社既定の手当てを支給している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会の会議や地域ケア会議などに参加したり、グループホーム協会主催の交換研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時から事前面接の時などに本人の心配事や不安等を汲み取るよう努めている。また可能な限り見学に来ていただき雰囲気を感じてもらおう等、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせから入居に至るまで聞き取りなどによって家族の不安、希望等を汲み取るようにしている。また面会時等の機会を捉え要望等を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族との面会、話し合いなどで本人に合ったサービスの利用を勧めるなど自事業所のみでなく情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備から片づけ・洗濯物たたみ等、出来ることは一緒にして頂きながら共に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を伝えたり、行事と一緒に参加して頂く等、協力し合える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室へ送迎援助したり、外泊支援をしたり今までの生活と園での生活との関係を上手に組み合わせて、関係が途切れることのないよう努めている。	墓参りや、各家族の集まりには家族が連れて行く。温泉で行う敬老会では、温泉バス利用者(24名)と家族と共に自家用車で往復する利用者(20名)利用者・家族・事業所とのコミュニケーションが図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がより良い関係を保つことができるよう関係性を把握するよう努めている。入居者同士のトラブルがないよう、見守り、サポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族にその後の様子をお伺いしたり心配事を傾聴している。又転居の際には情報を共有したり転居先に面会に行くなどをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、本人の思いに耳を傾けて思いや希望の把握に努めている。日々の発語の中から希望や意向を汲み取るようにしている。	利用者本人との会話の中から過去の経験や生活を聞き取り、ケアプランに組み込んでいる。また、お洒落な方で、綺麗なタオルで顔を洗い、自分で髪をプランで整えるプランを立て、2週間実行したところ、表情が変わり、笑顔が戻った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の様子の情報を家族や担当ケアマネ・本人等から伺ったり、日々の会話の中から生活歴を汲み取るよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言動・表情・体調等から変化を読み取り、都度対応している。一人一人の出来る力に合わせ、出来ることはして頂けるよう声掛け・対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は日々の支援の中で常にモニタリングしており、申し送りや会議等を通じて介護計画を作成している。	毎日の業務日誌、ケアマネージャー、担当職員、病院などからの情報収集し、ケア会議で検討し、介護計画に反映している。センター方式を取り込んだものにシフトすることを考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し日誌を作成している。職員は、日誌や申し送りノート・職員間の話し合いの中で情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向を把握しながら現状で何が出来るか考えて対応している。又事業所のみならず必要と思われるサービスの情報提供を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室や喫茶店等に出向いたり、近隣の保育園や下太田児童福祉センターの子供たちと交流を持つ等、お互いに楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族の希望を聞き、主治医、協力医で連携を取って頂きながら適切な医療を受けることができるよう、支援している。	本人、家族の希望する主治医がいる。協力医は、訪問診療も受け入れていただいている。緊急時や夜間の往診が事業所の協力医院においてなされ、家族から喜ばれている。協力医院、本人・家族、事業所の信頼関係がうかがわれる。歯科医は、訪問診療希望者だけ訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化も看護師に報告し指導の下職員間で状況を共有し病状の早期発見に努め協力医の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、園での生活状況や、介護の方法等を情報提供し、入院中でも病院担当者と連絡を取り合いながら早期退院に向け支援している。必要なものを届けたり洗濯などの支援に努め、退院後はサマリーを活用し症状の変化に注意している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にて指針を作成している。終末期の対応について、本人・家族の意向を把握し、方針を職員と共有しながら支援している。医師が終末期と判断した場合は、最善の方向性を本人・家族・医師・園職員で検討しながら対応していく。	終末期における指針が作成されており、入居時に説明がされている。看取り介護経験はないが、本人・家族と十分に話し合い、(延命治療は望まないが)食事が摂れなくなり入院された利用者がある。食事が出来るようになったら事業所に帰る、と話し合われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを提示している。実践力向上のため、今年度は消防の協力を得て普通救命講習を全職員が受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は消防署の普通救命講習を全職員が受講している。年2回の消防避難訓練のほかに、自主訓練を行い、避難の方法を全職員が身につけるように努めている。また、訓練に地域の方々の参加もお願いし、いざというとき協力しあえるよう体制づくりに努めている。	事業所職員だけでなく、消防署や運営推進会議の委員の協力を得ながら、年2回の避難訓練を行っている。なお、夜間想定避難訓練や自主訓練も積極的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や性格を尊重し、声掛けをしている。特に、入浴や排せつに関しては、プライバシーを損ねることのないよう、言葉遣いに配慮している。また、本人の分かる言葉で声掛けしている。	上から目線の声かけはしない、「ちゃん」付けはしない、などに配慮しているほか、指示はきちんと柔らかな言葉遣いで、地域の言葉を使う、を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が好きで・やりたいことを出来るように努めている。今日着る服を選んでいただいたり、自分が過ごす空間を選んでいただいたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、本人のペースで過ごしていただけるよう配慮している。危険がある場合や、行事の際などは、こちらのペースに合わせていただくこともあるが、その際でもなるべく本人の希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選んで頂いたり、化粧を楽しむ等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片づけ等、一人一人の能力に合わせて出来ることをして頂いている。一人一人の好き嫌いに合わせて代替え品を提供したり、可能な限り旬の食材を提供するよう努めている。	完食した利用者には、職員が全部食べたことへ優しい声掛けがなされていて、(利用者の)笑顔が見られた。食事時の雰囲気は明るく楽しい感じが感じられた。利用者の希望メニューも取り入れ、季節感のある献立作り等の工夫が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜の嫌いな方に関しては、声掛けを工夫し食べていただけるようにしている。なかなか水分を摂れない方に関しては、ゼリーで摂取して頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けで歯磨きをして頂いている。その方の能力に応じて見守り・介助等行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立している入居者についてはプライバシーや自尊心を傷つけないような声掛けを行い、援助が必要な入居者については、排泄パターンを把握しながら気持ちよく排泄できるように支援している。	入院時は、身体拘束(オムツ、ミトン、つなぎ服)を受けていた利用者が、こちらのホームに入居後、布パン、夜はリハパン、現在は布パンツとなっている。排泄パターンを把握し、頻繁に声がけをして改善に向かっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課の体操・運動をしたり、乳製品の摂取や繊維質のものを摂って頂いている。改善されない方は、主治医から処方された薬を服用している。排便の有無・量・形状を記録し、状況に応じた服薬管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴される方もいらっしゃる、対応可能な体制を取っている。入浴の拒否があり、誘導に工夫が必要な方もいらっしゃるが、最低2回は入浴して頂けるように配慮している。入居者の安全を考え、職員が多い日中に入浴して頂き、それ以外に希望される方には柔軟に対応している。	1日3～4名入浴している。午前中に入浴される利用者は1名、午後は3名いらっしゃる。13時～15時に利用されている。毎日、入浴を希望される方へも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食堂でテレビを見て過ごす方、居室で編み物や書き物をして過ごす方、それぞれ自由に過ごしていただき、多動・不穏となる入居者には傾聴を行う等安心して頂き、休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は鍵付き書庫に保管し、薬情報を個人日誌に綴り、日誌の服薬情報欄にも記録を行い、変更あった場合は特記事項や申し送りノートに記入し、職員全員で把握している。服薬時は、名前・日付・本人確認を行い、手渡し、服用確認の徹底をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望に応じた対応・支援をしている。散歩やドライブ・外食・行事等を楽しんでいただき、気晴らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	園の中で過ごしがちになるため、散歩や外気浴・外食・ドライブ等の機会を設けて支援している。	家族の協力を得ながら支援しているほか、事業所の買い物に行く時等に、同行して出かけている。ドライブは利用者2人に職員2人が付き添っている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム田園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にお預かりしている入居者は園で管理している。お財布にお金がないと不安な入居者については家族の了承の下、ご自身で所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの要望があれば、対応している。遠方の家族からは、電話やお手紙が定期的に寄せられている。毎年の家族への年賀状は恒例となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、みんなで過ごす場と捉え、季節ごとの装飾をして話題にしたり、季節を感じられる工夫をしている。ゆったりと過ごせるパーソナルスペースがあり、思い思いの場所で過ごしていただいている。	広い廊下とゆったりした談話室・食堂に季節の花が飾られ、作品が貼られている。食事は、カロリー計算されたメニューで提供されている。明るさも程よくあり、居心地のいい空間づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士でお茶を飲んだり、談笑・歌やレクを楽しめるスペースがある。窓際にソファを置いて自然を楽しめる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参して頂けるようお願いしている。帰宅の要求の強い入居者などには、逆効果の時もあるため家族と相談しながら臨機応変に対応している。	各居室9畳の広さがある、ゆったり整理整頓された居室である。本人によっては、使い慣れた家具などで、帰宅願望になることもあり、本人・家族と相談をして配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」の張り紙や居室前に「〇〇様のお部屋です」等の張り紙をしたり、声掛けを工夫する等して入居者が不安なく過ごせるように働きかけている。		